

木質バイオマス資源の持続的活用による再生可能エネルギー導入計画策定事業 概要説明（岐阜県御嵩町）

1. 事業概要

事業名	御嵩町公共施設における木質バイオマス熱利用設備導入計画策定事業
検討対象設備等	御嵩町で産出される薪（伐採枝なども検討）を活用した木質バイオマス熱利用設備 （町内公共施設5ヶ所：町役場本庁舎、ホール、保育園、児童館、図書館）
平成30年度 補助金交付予定額	5,670,000円
事業内容	御嵩町全域における森林等（公園等を除く）における賦存量を調査する。対象となる樹種は人工林ではスギ・ヒノキ、天然林では持続的に活用可能な樹種を検討する。調査方法はドローン等による空中写真解析のほか、現地踏査による。岐阜県の森林簿も参考とする。調査の結果、約30年を1サイクルとして、1年間に生産可能な木質バイオマス資源の量を算出する。また、木質バイオマス資源の生産・管理・供給・そして使用後の資源の処分までの一連の流れを確立させる。以上をもって5施設の規模・構造に対して最適な木質バイオマス熱利用設備を選択し、導入し、持続的に活用していくことを検討する。

2. 設備導入予定等

設備導入時期	導入時期：図書館については平成32年度中、その他の施設については平成33年度中を予定。 スケジュール：図書館については平成32年中の着工・完成を予定。その他の施設についてはそれぞれの建設スケジュールに準ずる。
CO2削減効果	現施設における、暖房に係る平成29年度中のCO2排出量は、61.6tであった。これを、カーボンフリーのバイオマス燃料に代替するため、想定されるCO2排出削減量は61.6tCO2 /年となる。
生物多様性保全効果	木質バイオマス資源を生産する過程で、持続可能な伐採計画を策定し、森林を適切に伐採することで森林の環境や生態系を激変させることなく、維持、回復させ、幼・保・小・中・高等学校での環境教育や、一般を対象とした自然観察会の場として活用する。